

科目名	地域経済政策論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修 ■ 選択	
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	のぐち ひでゆき	実務家教員担当科目	○	修得単位	2 単位
担当者名	野口 秀行	実施方法	□ 対面のみ □ 遠隔のみ ■ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	ローカルアベノミクスと地方経済の生産性				
到達目標	地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策を自ら考える				
授業概要	秋田が抱える課題を考察するとともにアベノミクスの地方創生法に活路を見出す				
授業計画					
第 1 回	アベノミクスと地方創生①～戦後日本経済と地方経済 なぜ地方は東京の黒子になり下がったのか				
第 2 回	アベノミクスと地方創生②～少子化を生んだ秋田の産業政策の混乱				
第 3 回	情報通信産業振興政策と地域経済～日本の中堅企業が日本経済の成長エンジン				
第 4 回	地方産業インフラ整備と地域経済①～震災復興は何処まで来たのか				
第 5 回	地方産業インフラ整備と地域経済②～移動革命の実現 HVからEVへ 脱炭素革命への認識は如何				
第 6 回	地方経済が一気にグローバル化する可能性～北上における I L C は				
第 7 回	地方創生と産業クラスター論～サプライチェーンの次世代化				
第 8 回	コネクテッドインダストリーズと秋田の産業振興策～飯田市における航空宇宙産業				
第 9 回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術～同和鉱業を事例に				
第 10 回	秋田の地域政策・都市政策～まちづくりの基礎 5Gで都市はどう変わるのか 20代に任せてみたら！				
第 11 回	増田レポートの根本的認識の間違い～スモール経済 限界集落からの脱却と古民家空き家ビジネス				
第 12 回	国家戦略特区～事例分析を中心に①新潟市の最先端農業の可能性				
第 13 回	国家戦略特区～事例分析を中心に②湯沢市の高齢社会における I T リテラシー				
第 14 回	地域成長支援ファンドとハンズオン投資そして I C O ～広がる地方の選択と成長可能性				
第 15 回	S E G s と E S G 欧州グリーンディールと地域開発				
第 16 回	期末試験				
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと				
履修条件 受講のルール	地域に関心を有していること				
テキスト	プリント配布				
参考文献・資料	追って連絡します				
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				
実務経験及び実務を活かした授業内容	日本政策投資銀行に勤務。地域開発の審査・融資・企画業務を経験。また設備投資研究所、開発総合研究所において研究・調査実務にも従事。国土交通省の地域振興アドバイザー、UR都市機構のまちづくりアドバイザーなど歴任。区画整理促進機構の評議員会委員長も勤める。政投銀の地域開発研究所と連携し、ネットワークを活かした最新の情報を提供する。				

学生への
メッセージ

SDG s を理解すれば、新たな地域経済活性化の可能性が見えてきます。